

1. 小児医療や育児に関する情報やサービスは？

- 母乳や育児、産後の健康等に関する不安や悩みについては、福島県助産師会「ふくしまの赤ちゃんの電話健康相談」（電話：0120-80-2051）をご利用ください。必要な場合には訪問もしています。
- 出産後は、保健師等が訪問し、育児に関する情報提供や相談に対応しています。
- また、福島県のホームページ「ふくしま医療情報ネット」でお近くの医療機関の情報を検索できるとともに、夜間の急な発熱などの緊急時の相談は「# 8 0 0 0」をご利用できます。お子さんの医療費については、18歳までは無料（保険適応分のみ）です。
- 県では、屋内遊び場確保事業を活用し、整備を行っています。

福島 屋内遊び場

検索 🔍

2. 保育所、延長保育・病後保育などの拡充は？

- 保育所では、各保育事業を実施し、地域の子育て家庭に対して支援を行っています。

福島 保育所一覧

検索 🔍

福島 保育事業

検索 🔍

3. 女性の身体、心のケアを気軽に相談できる場は？

- 思春期から更年期までの女性の心とからだの悩みについては、保健師による電話相談をご利用ください。

福島 健康サポートコール

検索 🔍

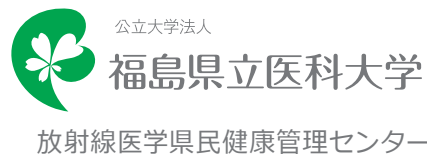
妊産婦専用ダイヤルにご相談ください

妊娠・出産・育児に関わることでつらいと感じる時もあります。これでいいのか相談したくなった時、心がつらくなった時は一人で悩まずに下記のセンターお問い合わせ先まで電話またはメールでご相談ください。専任の助産師・保健師等が、お電話でお話を伺います。



これからも、福島県・福島県立医科大学では、皆さまのこころと身体の健康を見守ります。

相談・調査に関するお問い合わせ先



妊産婦専用ダイヤル：024-549-5180
(平日 9:00～17:00)

妊産婦専用メール：ninpu@fmu.ac.jp

詳しい調査結果について

具体的な調査の結果につきましては、以下のホームページをご覧ください。

<http://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/>

福島 妊産婦調査

検索 🔍



福島で妊娠・出産された方へ

～ 県民健康調査「妊産婦に関する調査」結果 ～

福島県と福島県立医科大学では、平成 23 年度より毎年、「妊産婦に関する調査」を行っています。

調査の目的

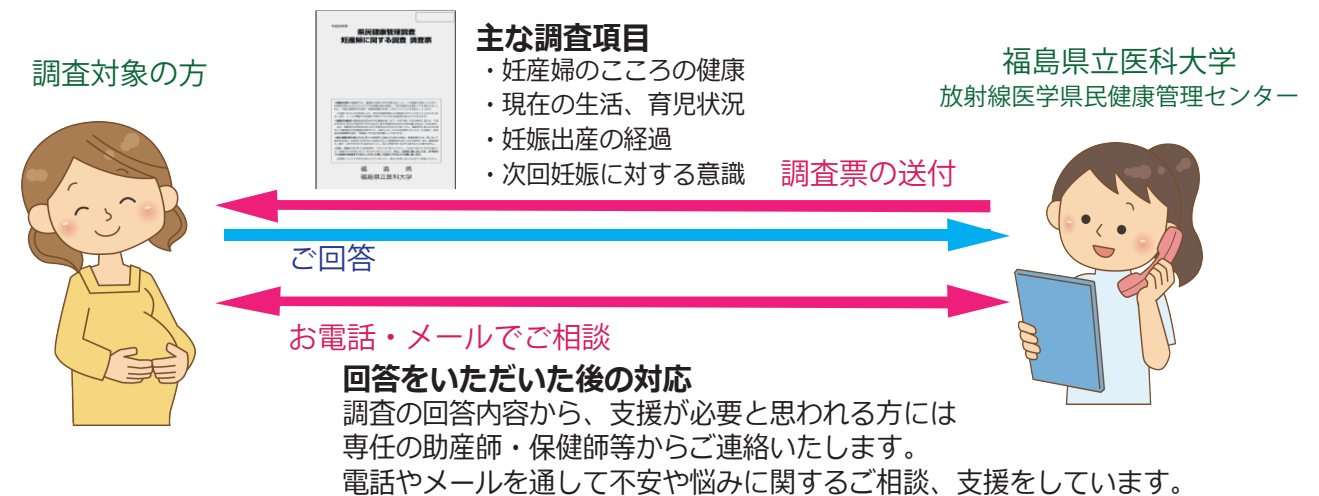
妊産婦の皆さまの
こころと身体の
健康状態を把握します

回答いただいた方
中でケアが必要な方を
サポートします

今後の福島県内の
産科・周産期医療の
充実に活かします

調査の概要

対象となる妊産婦の方へ調査票をお送りし、回答いただきます。電話やメールを通して相談、支援をしています。



調査対象者数とご回答数

調査対象の方は以下のとおりです。

●これまでの調査対象者のご回答数

調査年度	対象者	ご回答数
平成 23 年度	1 万 6001 人	9316 人 (58.2%)
平成 24 年度	1 万 4516 人	7181 人 (49.5%)
平成 25 年度	1 万 5218 人	7260 人 (47.7%)
平成 26 年度	1 万 5124 人	7087 人 (46.9%)

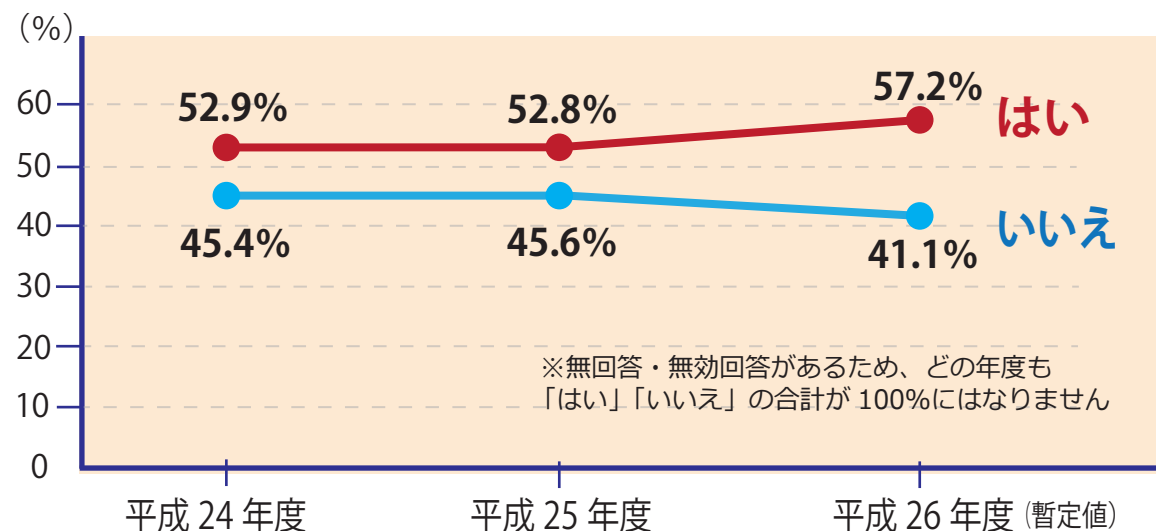
平成 27 年 10 月 31 日現在

●平成 27 年度の調査対象者

- 平成 26 年 8 月 1 日から平成 27 年 7 月 31 日までに福島県内の市町村から母子健康手帳を交付された方
- 上記期間に福島県外で母子健康手帳を交付された方で、福島県で里帰り出産された方

❖ 回答してくださった方の半分以上が、これからも妊娠・出産を希望しています。

●「次回の妊娠・出産をお考えですか？」



❖ 早産率、低出生体重児率、先天奇形率は、全国平均や一般的に言われているデータと変わりませんでした。

●早産率、低出生体重児率、先天奇形・先天異常発生率

	早産率	低出生体重児率	先天奇形・先天異常発生率	(%)
平成 23 年度	4.75 (5.7)	8.9 (9.6)	2.85	3~5 ※一般的な発生率
平成 24 年度	5.74 (5.7)	9.6 (9.6)	2.39	
平成 25 年度	5.40 (5.8)	9.9 (9.6)	2.35	
平成 26 年度 (暫定値)	5.41 (5.7)	10.1 (9.5)	2.31	

早産率と低出生体重児率の()については各年度の人口動態統計における割合および発生率。

早産：妊娠 22 週から 37 週未満で生まれた赤ちゃん
低出生体重児：2500g よりも小さく生まれた赤ちゃん

❖ 母乳で育てる方が増えてきました。

●母乳のみで育てている人の割合

30.4% (平成 23 年度) 35.2% (24 年度) 36.6% (25 年度)

母乳が出ているかは分かりにくいものですが、赤ちゃんの体重が増えているかどうかが目安となります。お母さんが水分をとり、よく休んで、赤ちゃんが欲しがるだけおっぱいをあげるとよく出るようになります。



❖ うつ傾向は減ってきていますが、まだ高い水準にあります。

●うつ傾向

27.1% (平成 23 年度) 25.5% (24 年度) 24.5% (25 年度) 23.5% (26 年度) ※暫定値

最後のページに記載してあるお問い合わせ先に、どうぞお気軽にご相談ください。

❖ 最近は、母親のこころや身体の健康に関することが多くなっています。

●主な電話相談内容

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
1 位	放射線の心配や影響	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康
2 位	母親のこころや身体の健康	子育て関連（離乳食、夜泣き、便秘、予防接種など）	子育て関連（離乳食、夜泣き、便秘、予防接種など）	子育て関連（離乳食、夜泣き、便秘、予防接種など）
3 位	子育て関連（離乳食、夜泣き、便秘、予防接種など）	放射線の心配や影響	子どものこころや身体の健康	家庭生活に関すること

Q 予防接種はどのようなスケジュールでするの？

A 予防接種は生まれて 2 か月後からです。スケジュールはかかりつけの病院や保健センターで相談できます。同時にいくつかの接種もできます。できるだけ早く受けることがお子さんの病気を防ぐことにつながります。

Q 上の子のやきもちで、毎日イライラしてしまいます。

A やきもちは、上のお子さんの心が成長しているためですが、つきあい方が難しいこともあります。下の子がお昼寝した時は、上の子とじっくり遊ぶなど、上のお子さんとの関わりを大切にしてみましよう。

Q 母乳に放射性物質が含まれていないか心配。検査はできないかしら？

A 福島県内で行っている母乳の検査では、放射性物質が検出された方はこれまでいませんでした。検査は今も行っていますので、福島県助産師会にお問い合わせください。

福島県助産師会
☎ 0120-80-2051 (平日 9:30 ~ 16:30)

Q 水道水が心配で、ミルクを作るとき、ミネラルウォーターを使っています。

A 平成 23 年 5 月以降、福島県内の水道水から放射性物質は検出されていませんが、売っている水をお使いになってもかまいません。硬水（マグネシウムやカルシウムが多い水）は消化が悪いため、調乳に適しません。軟水を使いましょう。